



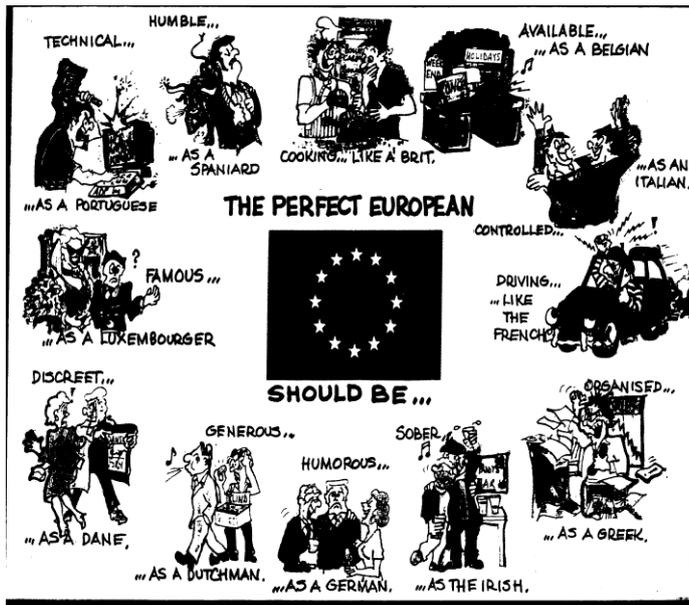
新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

THE PERFECT EUROPEAN (完璧なヨーロッパ人)

校長 永浜 裕之

1998年、私は「イギリスの教育制度」を調査するためイギリスに派遣されました。イギリスに渡る前にベルギーのブリュッセルに滞在し、EU統合に関する調査を行いました。

今回は、ブリュッセルの土産物屋で見つけたユニークな品物の話です。「パーフェクト・ヨーロッパ」グッズと呼ばれるもので、EU各国民の特徴を風刺した自虐的な言葉が書かれた絵葉書や飾り皿といった土産物の総称です。



完璧なヨーロッパ人とはー

イギリス人のように料理が上手で、ベルギー人のように休みなく働き、イタリア人のように控え目で、フランス人のように車の運転がていねいで、ギリシャ人のように計画性があり、アイルランド人のようにいつもしらふで、ドイツ人のようにユーモアがあり、オランダ人のように気前がよく、デンマーク人のように品行方正で、ルクセンブルグ人のように有名で、ポルトガル人のように最新の技術に強く、スペイン人のように腰が低い人のことである。

このグッズを見て笑える人は、ヨーロッパ通だと思います。こういうステレオタイプ、つまり、画一的なイメージは、座興になる面があるものの、正しい理解の妨げになることもあります。

イギリス人でも料理上手な人はいるでしょうし、アイルランド人も酔っぱらっている人ばかりではないでしょう。とはいえ、「パーフェクト・ヨーロッパ」グッズが、ヨーロッパ人はもとより、非ヨーロッパ人にも受けるのは、「平均値としては当たっているから、概ねそんな傾向を感じるから」だと思います。

ドイツ人は一般にまじめ過ぎてユーモアに欠けると言われるし、オランダ人は計算高くケチと言われます。割り勘のことを英語で「go Dutch」と言うほどです。イタリアは町も建築物もとても美しいと感じますが、国民は生活を楽しみ、国が秩序だっているとはとても見えません。イタリア人自身がそのことを笑っています。イギリスで私は、大学教授が暮らす寮に入りましたが、毎朝用意されるブレックファストは、毎日、同じ料理でした。

感心するのは、こういう風刺を書きこんだおみやげを売っていても、どこからも抗議も苦情もこないことです。それだけヨーロッパの人達は、自国の国民性をプラス面からもマイナス面からも受け入れ、お互いの多様性を認めながら、ヨーロッパという共同体を築いているのだと考えます。昔から戦争が絶えなかったヨーロッパが、今は、こんな冗談を言い合えるのは、本当に素晴らしいことだと思います。

翻って、「中国人のように〇〇〇で、韓国人のように〇〇〇で、日本人のように英語が上手く」といったような、「THE PERFECT ASIAN (完璧なアジア人)」グッズを作ったとしたらどうでしょうか。抗議が殺到するような気がします。アジアの人々の文化の練度がヨーロッパの水準まで高まり、お互いを認めあえるようになるまでには、長い時間が必要なかもしれません。

新宿山吹高校を舞台とした小説「万葉と沙羅」

数多くのTVドラマや映画に出演し、女優、脚本家、文筆家、歌手、コメンテーターとして活躍されている、中江有里さんが、新宿山吹高校を訪ねて下さいました。

彼女は、新宿山吹高校開校2年目の平成4年度に通信制課程に入学し、2年間で在籍して卒業しました。本校図書室に、中江有里さん同様、本校の卒業生である小説家の島本理生さん、女流棋士の万波佳奈さんとともに、紹介コーナーが設けられていますので訪ねてみてください。彼女が書いた小説も借りることができます。

来校の理由は、本校を舞台とした小説「万葉と沙羅」を今年の秋に出版予定とのことで、校舎の様子を確認し、加筆修正するためです。この小説は、文藝春秋が発行している「オール読物」という雑誌に連載され、すでに執筆は終わっているようですが、新宿山吹高校の描写は記憶に基づいて行ったそうです。連載していた小説をまとめる際、できる限り正確な描写に修正したいと話されていました。

午前9時に来校され、12時35分にお帰りになるまで、3時間30分以上、お話をすることができました。

校舎見学では、7階までエレベータで昇り、授業中でしたが、701室から708室まで、くまなく見て頂きました。続いて6階を見学というように、一つ一つ階を下り、地下1階の体育館やプールまで、すべての施設を確認しました。在学中に多くの時間を過ごした図書室は、特にじっくりと観察され、懐かしさを感じて下さいました。ご自分の紹介コーナーを見て喜んで下さいましたが、生年月日が書かれているのを見て、「先生、私もう47歳になったんですよ。」と言われたことが印象に残っています。

続いて、通信制課程の棚橋先生に加わっていただき、通信制の生徒の様子など、様々な話をしました。

彼女は、「新宿山吹高校に入学するチャンスに巡り合わなければ、人生は全く違うものになっていた。」と話し、いつも本校への感謝を口にしてくれます。とても嬉しいことです。

小説では、「万葉」という名の男子高校生と、「沙羅」という女子高校生が登場します。それぞれの名は、「万葉集」と、「平家物語」の冒頭部分に登場する「沙羅双樹の花の色」が由来です。二人のやり取りの舞台として描かれている場所が新宿山吹高校で、在校生の皆さんならば「ここは図書室」、「ここはラウンジ」など、ピンとくるような描写になるそうです。学校名を紹介するかどうかは思案中だそうです。

出版された際はあらためて来校して頂き、本を寄贈いただけることになっています。図書室で借りられるよう準備しますので、お待ちください。



定時制課程 学校行事予定

- 5月28日（金）中間考査時間割
- 6月4日（金）前期中間考査（始）
- ～10日（木）前期中間考査（終）
- 14日（月）教育実習開始
- 15日（火）避難訓練
- 17日（木）自己探索学習②

通信制課程 学校行事予定

- 5月22日（土）健康診断
- 29日（土）スクーリング1-2
- 6月5日（土）スクーリング1-3
- 12日（土）スクーリング1-4
- 19日（土）スクーリング1-5
- 26日（土）スクーリング1-6、避難訓練
- 7月3日（土）スクーリング1-7